クロセセリ
オオシロモンセセリ

以上の７科、41種類である。

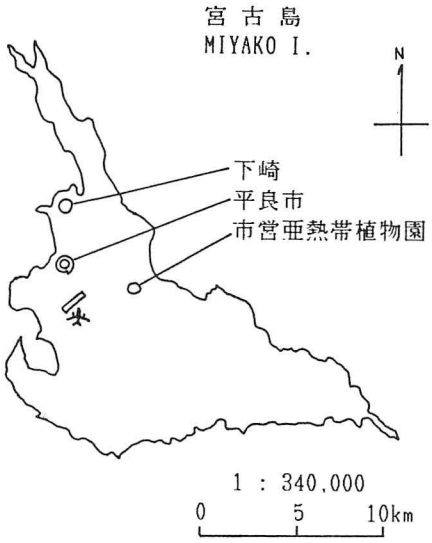

図 1

Teruo Irie　　相生市

青垣町でエゾスジグロシロチョウを採集

広畑政己

1987年４月29日に氷上郡青垣町稲土の奥の林道にて本種を採集しているので報告する。

県下では神戸市、宝塚市、川西など摂津地方と播磨地方では記録がかなり見られるが、北部では但馬地方で数ヶ所が発見されているだけで、丹波ではこれまでに記録がなくこれが初記録と思われる。

林道には本種の他にスジグロシロチョウも生息しており、当日採集した４♂の内１♂が本種であった。同定に当っては発香鱗と発香裏の大きさの比率を用いて行った。

Masami Hirohata　　姫路市

幹に産付されたクロシジミの卵

広畑政己・近藤伸一・永幡嘉之

蛭川(1985)によると本種の産卵植物はアブラムシやキジラミが寄生する各種の草本、木本植物で、その数は15科21種にも及ぶようで、他には小石にまで産卵したことが確認されている。また、産付位置は小枝や葉の表面裏面に産みつけることが多いという報告がある。

1988年７月31日に三木市大村にて写真１のように直径約15cmのコナラの幹に産付されている卵を発見した。幹に産卵するという例は珍しいと思われる。

産卵された卵は71卵で産卵位置は地上約２ｍの高さであった。コナラの生えている場所は林の中の少し日がさし込む程度の暗いところで、コナラにはひこばえもなく、当然樹上の葉にはアブラムシがいるかどうかも不明である。

蛭川(1985)では産卵行動を誘発する主要因はアブラムシやキジラミの存在よりもクロオオアリの存在を上げている。この場合もクロオオアリが樹液にきていたのでそれに誘発されてそのまわりに卵を産付したものと思われる。

この他に同地でナラガシワの小枝にも20数卵産卵が確認できたので報告をしておきたい。

〈参考文献〉

蛭川憲男(1985)　クロシジミ　文一総合出版　東京

写真１　幹に産付されたクロシジミの卵